

# 算数と生活

北海道算数数学教育会  
小学校部会 札幌支部  
平成11年 7月21日発行

No. 95

## これからの算数教育を考える視点

北数教札幌支部副支部長

札幌市立前田小学校長 荒川 忠

算数科の学習指導要領の算数の目標を現行と新しい学習指導要領とで比較してみると

### 《 現学習指導要領の算数の目標 》

「数量や図形についての基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、数理的な処理のよさが分かり、進んで生活に生かそうとする態度を育てる」

### 《 新学習指導要領の算数の目標 》

「数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活に生かそうとする態度を育てる」

1. 算数的活動を通して 2. 活動の楽しさ 3. 数理的な処理のよさに気づく

上記のような1～3の新しい言葉が述べられています。このことを踏まえ、平成十四年に向けて次の四つの視点を常に意識して考えていきたい。

### ① 実生活と、より関連付けた算数教育を

一般に算数の学習は、抽象性や形式性に流れやすい教科であるともいわれる。数学の歴史上の発達を踏まえ、実生活の事象に結びつけた、或いは、実生活の中から算数の問題を見つけていくことが、算数の意味が一層明らかとなったり、その有用性が実感できるようになったりすると考える。

※「抽象性」…多くの事柄に共通する性質などを抜き出してきて与える

「形式性」…内容を取り扱う際の方法や手続きに着目する

### ② ゆとりをもって学習できる教育課程に

現行の教育課程においても、算数の内容を系統性から見て、より学習の基礎的・基本的な内容に重点をかけるとか、日常生活での活動の基になる部分に重点をかけることです。その結果、時間的・精神的なゆとりをもって学習することができ、実際に作業や体験をする活動や念頭での操作活動も含めた「算数的活動」を多く取り入れることもできる。

※ 基礎的・基本的な知識・技能について

\* 「日常生活などの中で必要なこと」

\* 「算数の新しい考え方を生み出す基になる」

\* 「問題解決などの方法を作ったりするのに必要なこと」

### ③ 学ぶことの楽しさや充実感を味あわせて

学ぶ楽しさ等を感じる時は、「自らの主体的な活動によって理解した時や体全体で体験した時、自らの工夫が解決につながった時」などが考えられ、『主体性を持たせる』『体験的な学習を取り入れる』『ゆっくりと時間をかける』などの①②④にも関連することを多く取り入れることが大切である。

### ④ 感覚を豊かにする学習指導を

これからの社会では、人間らしさを育てる教育を大切にしていかなければならない。そのためには、算数を機械的に使うだけではなく、「感覚を生かす」ことを大切にされた指導を重視していくことである。特に、『およその大きさをとらえる』という感覚を育てることは、人間らしさを育てることに繋がる大切な指導と考えている。